

# Bestopia

ベストピアは 小原靖夫の個人誌 です 2013年3月号 第313号

「祈りの春」 3・11 を忘れない

パリの古賀さんから「祈りの春」と題したパリ通信が届きました。(是非パリ通信をご覧ください)

フランスの「ル・モンド紙」が福島原発事故を特集し、その一部が紹介されています。ベストピアの今月号のトップ写真がその内容です。「福島の子供たちを支援する」コンサート、ダンス、習字や漫画アトリエ、お寿司の出店等大きなイベントが企画され宣伝されています。このようなイベントは外国支援のように見えますが本質は原発依存率の高いフランスでは原子力発電に対する自らに問題提起を問いつづけることにあるように思われます。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ことができないのが原子力発電問題です。日本の新聞の多くの特集からわかることは市民感情としては「原発反対」「即時廃止」の声が強いということです。私もその一人です。

原発に反対すると言うことは、電力の受益者として生活のあり方を根本的に考え直さなければならないことを覚悟しなくてはなりません。10年前にベストピアで「2分の1の生活」を書きましたが、今は実践に移しています (そうせざるを得ない訳があります)

個々人の生活においてエネルギーの浪費をなくし更に節約する。産業界にあっても非効率な営業形態の見直しを積極的に進める。消費者としての私が効果的と思う一例は、コンビニエンスストアと外食産業の営業時間をセブンーイレブン(7時開店午後11時閉店)にすること。そして、一週間に一日は休日とすること。更に正月休みとお盆の休みを復活すること。連続休暇を最低7日とすること等によってLOHS(ロハス)な生活を通して環境と健康を良好に持続可能にすることです。

現代文明はスピードを更に速くする為に便利過剰になっています。企業は顧客満足の実現という美しい言葉で過剰サービスと「ついで買い」(目的外購買)を仕掛けています。3月の初めあるテレビ番組で目的外商品をいかにして買わせるかという内容で、「ズルさと愚かさの組み合わせ」を見せられました。この事で私たちは「段取り能力」と「整理整頓能力」を失ってきました。これは危機対応力が衰退している事と同じです。もっと言えば、感性を蝕んでいるようなものです。

ルネサンスは暗黒の中世からの人間復興でしたが、今は便利過剰さから生命感性を護る ことが必要です。

原発問題を含め3・11を風化させないために、私たちの教会では毎週東日本大震災の被災者の方々への祈りと年間15回の昼食会の料理を当番が作り、値段を付けず、食べた人が東日本大震災の復興献金をするという方法で継続しています。死亡者1万5881人、行方不明者2668人(2013年3月8日現在)、そして今尚、避難生活をなさっている方31万5196人(2013年2月7日現在)を忘れないで、「我が事」として、政府企業の責任を早く果たしてもらいたいと強く望んでいます。区切りじゃない。忘れない。東日本大震災。福島原発事故

## 上からも下からも

### (1)隕石の落下に脅える世界

2013年2月15日、ロシアのチェリャビンスク市一帯に隕石が落下し大きな被害がでた報道で、私の中で「もしや」というモヤモヤした気持ちが残っていました。机の前に座る時間がなく、1ヶ月も引きずってきましたが、自分のベストピア295号--296号を読み返しハッキリしました。

チェリャビンスクにはマヤークという核施設があって 1957 年 9 月 29 日爆発事故があり、被害は周囲 1500km を汚染し 200 名以上が死亡、27 万人が被曝したと言われています。近くのカラチャイ湖には放射性廃棄物が貯蔵されており、これが大気中に放出されると大惨事になります。更にこの東 1830km の所にトムスクという所があります。ここにはフランスから 8000km 旅をしてやって来た再処理回収ウランのコンテナが屋根もなく置かれています。(この様子は宇宙から写しだされて確認できるようです)

この再処理回収ウランは日本も無関係ではありません。以前、日本は使用済み核燃料の再処理をフランスに依頼していましたが、フランスが自国の処理に精一杯になって断られています。1990年以降フランスから毎年120tの再処理回収ウランがトムスクに運ばれその所有権がどうなるかという問題も腹んでいるようです。この事を私が知ったのは、一昨年の8月11日でしたが、その時、トムスク州の管理責任者は「唯一のリスクは飛行機の衝突である」と言っていました。これは暗にテロ行為を指していると思われますが、これからは隕石の落下も大きなリスクになってきました。世界は使用済み核燃料の後始末をたらい回し、且つ先送りしています。

日本が世界に貢献できる模範的な解決方法の実践ができればと祈っています。

### (2)広がる地下水の汚染

マヤーク付近では 1 年間に 300m の速さで核廃棄物による地下水脈の汚染が続いているとのことです。

福島原発事故の前に世界で知られている大きな事故を整理すると次のようになります。 いずれも放射性廃棄物問題を抱えています。

- ①1957年7月29日 マヤーク原子力施設
- ②1957 年 10 月 10 日 ウィンズケール原子力工場(セラフィールド・英国)
- ③1979 年 3 月 28 日 スリーマイル島原発事故
- ④1986 年 4 月 26 日 チェルノブイリ原発事故
- ⑤マンハッタン計画のワシントン州ハンフォードの核施設--米国最大級の核廃棄物の問題を残しています。

最近の報道で大きく取り上げられたことは、福島原発に 1 日約 400t の地下水が流入しているとのことです。地下水の速さと量の多さに驚きました。地下水での影響はユックリ長くですから注意が必要です。

中国の重慶付近では飲料水に困っていることがテレビでやっと報道されました。地下水の汚染は大気汚染どころの話ではないようです。

PM2.5 による大気汚染は関東地方にも現れはじめました。花粉と煙霧と重なった 3 月 10 日の午後 2 時半頃、神奈川県の中央にある相模原市では、目が開けられないほどに粉塵が舞い上がり歩行が困難になりました。目がおかしくなるくらいのゴミを浴びながら 20 分歩きながら被災のもたらす影響の大きさを実感しました。自然災害に最も強いと私が考えていた福岡県の被害も実感しています。吸う息が苦しいと言っても過言ではありません。小田原に戻ってホッとしました。更に南足柄市の家に戻って自然に囲まれた我が家に改めて感謝しました。自然界の持つホメオスタシスの働きは驚くべきものです。こんな

に人間が毒素を排出しても、尚、それを浄化しようとする力は無限のものなのでしょうか?それとも、「最後の審判」で大きな裁きを受けるのでしょうか?人類は今こそ叡智を絞って平和な世界でロハスに生きる道を模索しなければならないと思います。

# 孫の卒業式に感動

2013年3月13日、孫娘の中学卒業式に参列しました。卒業生は19名の宝塚市西谷中学校、誇るべきリーダーシップ、感性の躍動する学校です。

校長先生の式辞は品格ある形と生徒全員へのストローク(存在を認める行為、言葉)に満ちていました。校長先生がこれだけ一人一人を理解しているのだったら担任はどんなに深く個々を理解しているのかという新たな疑問が卒業式の中で生まれました。それに応えるかのように式の後の最後のホームルームが父兄に公開され、私も厚かましく親について教室に入りました。そして担任の黒田先生にはじめてお会いしました。この1年間の担任にもかかわらず3年間、個々の生徒を素晴らしく観察されておられこれにもまたまた驚きでした。驚きに驚きが重なる実感体験をさせていただいたわけです。将来この子供達が人生の悩みや苦しみに悶える時には、この校長先生から頂いたストロークを思い起こして自分の存在価値を再確認することができます。本当の心の故郷をもって卒業できる19人は幸せです。式辞の最後は坂村真民さんの「念ずれば花ひらく」の全文が忠実に引用されました。卒業式の中で生徒全員が3年間で一番感動した短い作文を読み上げる場面がありました。国語の先生の配慮が輝いた瞬間でもありました。孫娘の文章は次の通りです。

高校合格、私はとてつもない嬉しさを感じました。私が本当に進路を決定したのは 12 月でした。その時はまだ合格できるかどうか分からず、それまで受験勉強に気合を入れてやっていなかった私は、とても不安でした。そして冬休み、神奈川からきてくれた祖父が、勉強に毎日付き合ってくれました。分からないところを教えてくれ、本番の試験問題を予想しながら準備をしてくれました。そのおかげで冬休み明けには、この前までの不安が消え苦手なところが少なくなり、自信がついてきました。

そして合格発表、おなかが痛くなるほど緊張しました。合格と聞いたときは自然と笑顔になれ、言葉で言い表せないほど喜ぶことができました。

受験を通して私は成長できたと思います。これからも前向きに、たくさんのことに挑戦 していきたいです。

2013年3月13日 龍見ほのか

右下の写真で赤い合格のお守りは校長先生から、鶴が中に入っていました。紺のお守りは担任の先生から。この他に合格鉛筆が添えられました。全員への心のこもったプレゼントです。

卒業式の中では読み上げることはしませんでしたが、3年間お世話になった吹奏楽部の顧問、岡田先生への文章は以下の通りです。

金賞ゴールド。私は、この言葉が忘れられません。みんなでコンクール会場で「キャー」と叫んでうれし涙をながしたことを、昨日のことのように覚えています。県大会へ行けることも決まり本当に嬉しかったです。

約2年と10ヶ月。今思うと、あっというまでしたが吹奏楽部として活動した毎日は、とても充実していました。そして、音楽の楽しさ、部活の仲間と同じ方向(目標)に向かって達成する素晴しさ等たくさんのことを学びました。私たちは、1年生の時から「コンクールで金賞、県

大会出場」というのを一つの目標として



きました。1年2年の時は皆で精一杯頑張ったものの結果がついてこず、悔しい思いをしました。特に2年生の時はコンクールがどんなところかということが分かっていたし、1年生の時よりも沢山練習しただけに、本当に本当に悔しい思いをしました。そして、3年生。自分たちのやめにも、今まで沢山のことを教えてもらった先輩方のためにも、これから頑張る後輩のためにも今年こそは、「必ず金賞取り、県大会に行く」という思いが強くありました。そういう強い思いもありながら、緊張もしていましたが本番は今までやってきた精一杯のものが出し切れて、楽しく音楽を表現し演奏することができました。コンクールという場だけでなく、2年と数ヶ月の間、様々な所で演奏をしました。音楽の魅力を目指し、みんなで練習する毎日が私は楽しかったです。時には、辛いことも苦しいこともありましたが、お互いに励ましあいながら乗り越えたことも忘れられない最高の思い出です。一緒に頑張ってきた友達、いつも陰で支えてくれた家族、沢山のことを一つ一つ丁寧に教えてくださった岡田先生。感謝しています。今まで本当にありがとうございました。

先に述べました担任の黒田先生は全員に個々に相応しいメッセージを美しい筆跡で丁寧に書いておられます。孫娘が頂いた有難いものです

### 龍見ほのか様

卒業の日を迎えた今でも、ほのちゃんと初めてしゃべった時のことをおぼえています。 英語の時間に自己紹介をしてもらい、静岡からきたことを聞いて、誰よりも親近感を感じ たのを覚えています。(もしかしてほのちゃんは西谷での新たな生活にドキドキしていた 気持ちの方が強かったかもしれませんね!)ほのちゃんの印象はいつもどんなときも笑顔 で、頑張り屋さん、コツコツと、目標に向かって努力できる人。それは 1 年生のときも、 今も全く変わっていませんね。ほのちゃんの前向きな頑張りを見ていると、私もみならわ ないと!!と思う場面がいくつもありました。毎年、文化祭発表会でのピアノ伴奏をして くれていること、2年のときには英語祭にチャレンジしたこと、3年生になってからは学 内だけでなく、ジャズバンドとの合同演奏をしたこと。どんなことにも限界を作らずにチャレンジしていたほのちゃんの姿は、キラキラしていたよ!そして何より嬉しかったのが 武庫川女子大学付属高校合格おめでとう!これからの高校生活がたのしみですね。

ここにたどり着くまでに、どの高校を受験をしようか迷ったときもありましたね。そして一番心配したのが、冬休み期間中にダウンしたことです。頑張りすぎたのかな?試験当日を無事迎えられることが出来るのかな?と心配したけれど手術することなく無事元気になってくれたので安心しました。きっと神様がほのちゃんの近くにいて、応援してくれているんだと思ったよ。

校長室で、ほのちゃんと一緒に合格を喜び合った思いでは一生忘れません! そしてここまで来るのにいつも家族が見守ってくれたこと忘れないでくださいね。

ほのちゃんと話していると、いつもお父さんお母さん光棋君、そしておじいちゃんおばあちゃんの暖かさを感じます。素敵な家族に囲まれて幸せいっぱいなほのちゃんを見ていると私も幸せな気持ちになります!これからも家族を大切にしてくださいね。

これから新たな生活がスタートします。きっとやりたいことや夢がたくさんあって迷うこともあると思いますが、ほのちゃんらしく、ほのちゃんのペースで、何でも前向きにチャレンジしてみてください。ほのちゃんの頑張りの様子が聞ける日を楽しみにしています。 2013年3月13日 黒田万里江